

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9171	大正12年	春の部	一方に柳靡きつ春吹雪	春吹雪	天文
9172	大正12年	春の部	中流の舟に日射しや春吹雪	春吹雪	天文
9173	大正12年	春の部	思はずの月ハ朧に春吹雪	春吹雪	天文
9174	大正12年	春の部	我等が灯目にや映りて鼻啼く	鼻	動物
9175	大正12年	春の部	議論無用深夜鼻に罵らる	鼻	動物
9178	大正12年	春の部	梅柳唐人笛も聞ゆなり	梅柳	植物
9180	大正12年	春の部	南國の人を弔ふ雪解哉	雪解	地理
9181	大正12年	春の部	女もまじり何の往來や雪融に	雪解	地理
9183	大正12年	春の部	春服や詠じて帰る日高きに	春服	人事
9185	大正12年	春の部	鳥雲に入る時君がたよりかな	鳥入雲	動物
9186	大正12年	春の部	雪解水畔越すに人等語りすぐ	雪解	地理
9187	大正12年	春の部	野蒜萌え / \ 風渡る地を歩む	野蒜	植物
9188	大正12年	春の部	春山の霞を吸ひて樵の見ゆ	春の山	地理
9189	大正12年	春の部	畔近く田螺遊ぶや蔭の臺	蔭の臺	植物
9191	大正12年	春の部	先生を送るや春の水に浴ひ	春の水	地理
9193	大正12年	春の部	皆鳴くに鳴かぬ蛙の慵さよ	蛙	動物
9194	大正12年	春の部	芹摘みに天翔りゆく鳥影す	芹	植物
9195	大正12年	春の部	芹摘や四澤の水の湊まるに	芹	植物
9196	大正12年	春の部	莖芹のつむべくなりぬ雁別れ	芹	植物
9197	大正12年	春の部	家遠く芹つむ子等に歸雁哉	芹	植物
9198	大正12年	春の部	せゝらぎに日の匂ひけり芹みどり	芹	植物
9199	大正12年	春の部	芹摘の喚べば鷹へて田螺採り	芹	植物
9200	大正12年	春の部	芹摘は黙し梅見の語り過ぐ	雑	雑
9202	大正12年	春の部	雲歸る峰又峰の麗かに	麗	時候
9204	大正12年	春の部	春風に背ら吹かせて家路かな	春風	天文
9205	大正12年	春の部	芹採や卑しからざる女の童	芹	植物
9206	大正12年	春の部	芹濯ぐ流れ夕東風吹渡る	芹	植物
9207	大正12年	春の部	芹摘の子等に轟く雷一ツ	芹	植物
9208	大正12年	春の部	山陰や春のつゆおく柴さくら	芝櫻	植物
9209	大正12年	春の部	お兵庫の址のみ存す花遅し	花	植物
9210	大正12年	春の部	三日照りて一日潤ふ春田かな	春の田	地理
9211	大正12年	春の部	崇山や霞を透す雪の襷	霞	天文
9212	大正12年	春の部	照り / \ て一日の夕霞みけり	霞	天文
9214	大正12年	春の部	この花に誰か識らむや雁の糞	花	植物
9215	大正12年	春の部	日の雨や楓のぬれ葉濡れ燕	燕	動物
9216	大正12年	春の部	朝戸出の苗代見るや燕も	燕	動物
9217	大正12年	春の部	芍薬の頃双棲の燕かな	燕	動物
9218	大正12年	春の部	燕の來著きし里や花遅し	燕	動物
9219	大正12年	春の部	遠山の雪や燕翻る	燕	動物
9220	大正12年	春の部	老一人留守居燕子慈々と鳴く	燕の子	動物
9221	大正12年	春の部	翁媪挨拶す燕筋かひに	燕	動物
9222	大正12年	春の部	一ツ家や双飛の燕寢に歸る	燕	動物
9223	大正12年	春の部	燕の今宵を寝ぬる舊巢哉	燕	動物
9224	大正12年	春の部	野仕事や燕もまじる大族ヲ	燕	動物
9226	大正12年	春の部	草を抜いて花片を見る愁哉	花	植物
9337	大正13年	春の部	八重垣の瑞垣の邊の霞哉	霞	天文
9338	大正13年	春の部	梅の花を空薫物や御文管	梅	植物
9339	大正13年	春の部	老一木若木に交り春吹雪	春吹雪	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9340	大正13年	春の部	稀に見る鮮魚に春の吹雪哉	春吹雪	天文
9341	大正13年	春の部	春吹雪白魚網を掠めけり	春吹雪	天文
9342	大正13年	春の部	都上りの美人を見るや春吹雪	春吹雪	天文
9344	大正13年	春の部	人も無げに端山鶯啼にけり	鶯	動物
9345	大正13年	春の部	雲雀沈むや火を免れたる古芒	雲雀	動物
9346	大正13年	春の部	雲雀の國蛙の國と相隣る	雑	雑
9347	大正13年	春の部	舞雲雀紫の山を讃へつゝ	雲雀	動物
9348	大正13年	春の部	今晴れし野路の乾きや舞雲雀	雲雀	動物
9349	大正13年	春の部	やおら起ちぬ雲雀に名残留めつゝ	雲雀	動物
9350	大正13年	春の部	雲雀野や日々に相見る少女どち	雲雀	動物
9351	大正13年	春の部	雲雀野の水平かに流れけり	雲雀	動物
9352	大正13年	春の部	雨細し雲雀揚れば日は南	雲雀	動物
9353	大正13年	春の部	舞雲雀金鶏山は此方かな	雲雀	動物
9354	大正13年	春の部	不二の根の雪怖ろしき雲雀哉	雲雀	動物
9355	大正13年	春の部	落雲雀大根の花を戀ひつゝか	雲雀	動物
9356	大正13年	春の部	春曉の戸にふれて花賣の居り	春曉	時候
9357	大正13年	春の部	吟行の早蕨を折る暇哉	蕨	植物
9358	大正13年	春の部	貴人は野亭におはす蕨哉	蕨	植物
9359	大正13年	春の部	鳥の巢と梢はなりぬ古人の碑	鳥の巢	動物
9360	大正13年	春の部	鳥の巢に塔の丹碧間近なる	鳥の巢	動物
9361	大正13年	春の部	行春の海山かけて風斜	行春	時候
9362	大正13年	春の部	鳥の巢に夜のくもりと成にけり	鳥の巢	動物
9363	大正13年	春の部	藪浅く蕨折る人見知りけり	蕨	植物
9364	大正13年	春の部	旅心そらに鳥の巢高き哉	鳥の巢	動物
9365	大正13年	春の部	啼かはす鳥やこゝらに巢ひけむ	鳥の巢	動物
9366	大正13年	春の部	行春の或は水を趁ひありく	行春	時候
9367	大正13年	春の部	鳥の巢や城の良天徳寺	鳥の巢	動物
9368	大正13年	春の部	蕨折り / \ 山川の淵に臨みけり	蕨	植物
9369	大正13年	春の部	行春や露けしと思ふ宵ありき	行春	時候
9370	大正13年	春の部	蕨折るや遙かに望む市の塵	蕨	植物
9371	大正13年	春の部	行春の鳥のいさかふ草の上	行春	時候
9509	大正14年	春の部	春寒に在りて君がため句を思ふ	春寒	時候
9510	大正14年	春の部	春吹雪一ト時ありてたれ柳	春吹雪	天文
9511	大正14年	春の部	春寒や蝕みつゞる従軍記	春寒	時候
9512	大正14年	春の部	鶯や雪より起きし小柴原	鶯	動物
9513	大正14年	春の部	田の水の饒かなるまゝ田螺在り	田螺	動物
9515	大正14年	春の部	鶯の古巢たづねむ山椿	椿	植物
9517	大正14年	春の部	囀や珠を掘得て山下の	囀	動物
9519	大正14年	春の部	朧夜や橋を渡れば松の里	朧	天文
9520	大正14年	春の部	鶯や山畑拓く朝仕事	鶯	動物
9521	大正14年	春の部	春の野にこもりて物の鳴く音哉	春の野	地理
9522	大正14年	春の部	鳥どもの恋さまさまに霞かな	霞	天文
9523	大正14年	春の部	春愁を知らず流に沿うてゆく	春愁	人事
9524	大正14年	春の部	山行の杉苗春の露しげみ	春の露	天文
9525	大正14年	春の部	木芽あへ處々の啼鳥朗かに	木芽和	人事
9527	大正14年	春の部	曉深み鳥啼立つる卯月哉	卯月	時候
9529	大正14年	春の部	夏に入る草の色城の石垣も	立夏	時候
9530	大正14年	春の部	夏に入る葉雫窓を拂ふ哉	立夏	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9531	大正14年	春の部	夏に入る雨小寒しや城の木々	立夏	時候
9532	大正14年	春の部	故郷やつゝじがくれに知る女	躑躅	植物
9533	大正14年	春の部	水茶屋の水にさしたるつゝじ哉	躑躅	植物
9534	大正14年	春の部	旅人とつゝじに昔語かな	躑躅	植物
9535	大正14年	春の部	初夏の雨園林を潤しぬ	初夏	時候
9537	大正14年	春の部	卯の花の白き憂を主とす	卯の花	植物
9539	大正14年	春の部	野遊のいつこ硯の水汲まん	野遊	人事
9540	大正14年	春の部	雲雀鳴いて野遊の友など遅き	野遊	人事
9541	大正14年	春の部	野遊や箆のはしの百千草	野遊	人事
9542	大正14年	春の部	野遊や遙かに望む渡舟	野遊	人事
9543	大正14年	春の部	野遊やあらぬ方より男達	野遊	人事
9545	大正14年	春の部	まぼろしやつゝじがくれに小さき物	躑躅	植物
9547	大正14年	春の部	野遊の耳聳つる雉子の聲	野遊	人事
9549	大正14年	春の部	水の上の龍神堂や夏に入る	立夏	時候
9550	大正14年	春の部	神さびてよしある藤の葉勝なる	藤の花	植物
9551	大正14年	春の部	春惜む人々こぞり水の辺に	春惜む	時候
9552	大正14年	春の部	我と相見て春惜む美人かも	春惜む	時候
9553	大正14年	春の部	噴水の断えつ続きつ藤落花	藤の花	植物
9555	大正14年	春の部	風吹かバ吹け幟押立てん	幟	人事
9557	大正14年	春の部	京阪の方角つゝじ藪越に	躑躅	植物
9558	大正14年	春の部	蕨老いてはるけくなりし旅路哉	蕨	植物
9681	大正15年	春の部	春伐りの木口麗に匂ふ哉	麗	時候
9682	大正15年	春の部	春立や蒲團清らに雨をきく	立春	時候
9684	大正15年	春の部	熊撃てとそゝのかす雪の別哉	雪の果	天文
9685	大正15年	春の部	残雪の清らに柳しだれけり	残雪	地理
9686	大正15年	春の部	柳青き見つ書樓を下る時	柳	植物
9688	大正15年	春の部	梅柳天麗かに覆ふ哉	梅柳	植物
9689	大正15年	春の部	絵冊子の亂れ兒らはや雪に出づ	雪	天文
9690	大正15年	春の部	青松葉こぼれて道の凍返る	凍返る	地理
9691	大正15年	春の部	欄前や朧漲る垂柳	朧	天文
9693	大正15年	春の部	老のはて寂の極ミを梅の花	梅	植物
9695	大正15年	春の部	夢しば / 青を踏みぬ雪の宿	踏青	人事
9696	大正15年	春の部	細々と垂氷す春の曉に	春曉	時候
9697	大正15年	春の部	雪名残下萌故に消えにつゝ	雪の果	天文
9699	大正15年	春の部	清淺の水春寒の鶴もなし	春寒	時候
9700	大正15年	春の部	鶯に顔セ古き怡々如たり	鶯	動物
9701	大正15年	春の部	麗や堯にかも似し御頼	麗	時候
9702	大正15年	春の部	二三子後れて至る露の臺	露の臺	植物
9703	大正15年	春の部	詩を学びたりや未だし土筆摘	土筆	植物
9704	大正15年	春の部	麗や各志を言へ	麗	時候
9705	大正15年	春の部	野焼已まず水に臨んで夫子在す	野山焼	人事
9706	大正15年	春の部	鶯を其處と聴きけり山の上	鶯	動物
9707	大正15年	春の部	春風の古葉飛ばすや日の表	春風	天文
9708	大正15年	春の部	谷川のきり岸木芽尚堅し	木の芽	植物
9709	大正15年	春の部	暖や人の棲みけむ大昔	暖	時候
9710	大正15年	春の部	逕行く人影載せて春の水	春の水	地理
9711	大正15年	春の部	童子来てこそづかしけり古落葉	古落葉	植物
9712	大正15年	春の部	いつの世の石器うもれて堇かな	堇	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9714	大正15年	春の部	鶯の聲喬木の枝に在り	鶯	動物
9715	大正15年	春の部	春の塵と山吹なりぬうつ木垣	春塵	天文
9717	大正15年	春の部	山の雨城下の花に晴にけり	花	植物
9719	大正15年	春の部	或時は釣りさげて花の神祭れ	花	植物
9721	大正15年	春の部	笑を含んで巷の花に手を分つ	花	植物
9722	大正15年	春の部	花に約して松露を贈り來りけり	花	植物
9723	大正15年	春の部	草芳しと見つゝや草履作るらん	草芳し	植物
9724	大正15年	春の部	登臨や萬戸の花の揺ぐ風	花	植物
9725	大正15年	春の部	花人につみて示しぬ通草の芽	花	植物
9726	大正15年	春の部	山路來て花見の裳かゝげけり	花見	人事
9727	大正15年	春の部	花堇こゝに句箋を埋むべく	堇	植物
9728	大正15年	春の部	慵しや衣を拂ふ花のちり	花	植物
9730	大正15年	春の部	蕨長けて子を悲しがる雉子哉	雉子	動物
9731	大正15年	春の部	野に出でゝ泉を遠み春惜む	春惜む	時候
9732	大正15年	春の部	行春の句をかきつらね反古哉	行春	時候
9733	大正15年	春の部	春惜む句未成らず古手帖	春惜む	時候
9734	大正15年	春の部	衣につく柳の絮や春惜む	春惜む	時候
9735	大正15年	春の部	藤つゝじ小高き所友を喚ぶ	雑	雑
9736	大正15年	春の部	藤つゝじ水を索ねて人去りぬ	雑	雑
9737	大正15年	春の部	野遊や所をかへて河嶽の景	野遊	人事
9738	大正15年	春の部	つゝじちりしきて馬糞古りにけり	躑躅	植物
9739	大正15年	春の部	行春や盟ひに背く漁者の友	行春	時候
9969	昭和2年	春の部	大空の春は立てども陰りけり	立春	時候
9970	昭和2年	春の部	春立といへども大地しづま也	立春	時候
9971	昭和2年	春の部	天地を罩めて春寒ひたに在り	春寒	時候
9972	昭和2年	春の部	月は入りぬうなじも膝も春の霜	春霜	天文
9973	昭和2年	春の部	春寒の伊吹に遭ひぬ天が下	春寒	時候
9974	昭和2年	春の部	天そゝる氷は未だ融けなくに	氷	天文
9975	昭和2年	春の部	早川も今かよどまん凍返り	凍返る	地理
9977	昭和2年	春の部	麟鳳來宿帳も綴りけむ	帳綴	人事
9978	昭和2年	春の部	二月や研がんと思ふ斧の錆	二月	時候
9979	昭和2年	春の部	如月や木神祀る樵ども	如月	時候
9980	昭和2年	春の部	二月や新陵の霜の花	二月	時候
9981	昭和2年	春の部	二月や尚繪具ぬる五文風	二月	時候
9982	昭和2年	春の部	二月や又現はれし山の鬼	二月	時候
9984	昭和2年	春の部	大利根の奥の氷を劈きぬ	氷解	地理
9985	昭和2年	春の部	春泥や嘴を淨めて枝に鳥	春泥	地理
9987	昭和2年	春の部	春泥やいづこを関の蹄跡	春泥	地理
9988	昭和2年	春の部	春泥や籬落の花の白勝に	春泥	地理
9989	昭和2年	春の部	春泥に搏ち落したる小蟲哉	春泥	地理
9990	昭和2年	春の部	春泥や古き都の淺茅原	春泥	地理
9991	昭和2年	春の部	春淺し誰が句に入らむ柳の芽	春淺し	時候
9992	昭和2年	春の部	古梅の魂呼びさませ春の雪	春雪	天文
9993	昭和2年	春の部	碧空や雪間うれしき露の臺	露の臺	植物
9994	昭和2年	春の部	柳垂れてうすらひ自から融くる	薄氷	地理
9995	昭和2年	春の部	春の霜柳に解けて流れけり	春霜	天文
9996	昭和2年	春の部	いちじるく柳青みぬ春吹雪	春吹雪	天文
9997	昭和2年	春の部	火を鑽りて三月絶たずえぞが山	野山焼	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9998	昭和2年	春の部	山焼くる遠し合戦繪巻見る	野山焼	人事
9999	昭和2年	春の部	雪汁の川波高し野火の果	野山焼	人事
10000	昭和2年	春の部	大嶺の七岐八岐焼くる見ゆ	野山焼	人事
10001	昭和2年	春の部	山焼の燧袋も古にけり	野山焼	人事
10002	昭和2年	春の部	山焼や火を鑽れば啼く枝の鳥	野山焼	人事
10004	昭和2年	春の部	鶯の宿をこそ見め曉深く	鶯	動物
10005	昭和2年	春の部	おのがじゝ地を占めてをり露の臺	露の臺	植物
10006	昭和2年	春の部	欣然口を開くに似たり露の臺	露の臺	植物
10007	昭和2年	春の部	草蒨えぬ地もなし吾子思はぬ日も	草蒨	植物
10008	昭和2年	春の部	草蒨ゆるはじめ大方紫に	草蒨	植物
10009	昭和2年	春の部	鳥も來ずすくよかに草蒨え出でぬ	草蒨	植物
10010	昭和2年	春の部	風邪の目に早下蒨の浅みどり	草蒨	植物
10012	昭和2年	春の部	巢雀の夙に出て啼く此事か	雀の巢	動物
10014	昭和2年	春の部	うがらやがら雀も囃せ鶯も	鶯	動物
10016	昭和2年	春の部	遠つ祖の倚りにけむ木ぞ百千鳥	百千鳥	動物
10017	昭和2年	春の部	梅柳鼎にちりも無かりけり	梅柳	植物
10019	昭和2年	春の部	我が外に誰ぞ鶯を諦聽す	鶯	動物
10021	昭和2年	春の部	遷りゆく喬木正に芽ぶきつゝ	芽吹く	植物
10023	昭和2年	春の部	牡丹の朱となるべく蒼む哉	牡丹	植物
10025	昭和2年	春の部	明日の事に松露を掘らん夜の雨	松露	植物
10026	昭和2年	春の部	松露掘れと吾に簞かす主人あり	松露	植物
10027	昭和2年	春の部	花に負きて遙けくも來つ松露掘	松露	植物
10028	昭和2年	春の部	松露掘りし籃にいづこの落花哉	松露	植物
10029	昭和2年	春の部	海に向いて長嘯す或ハ松露掘る	松露	植物
10030	昭和2年	春の部	古草を焚く火に松露炙りけり	松露	植物
10032	昭和2年	春の部	松籟を聽て巢にある燕哉	燕	動物
10034	昭和2年	春の部	春惜む一筋心碑の前に	春惜む	時候
10035	昭和2年	春の部	春惜む人にまじりて往還り	春惜む	時候
10036	昭和2年	春の部	春を惜め同じ流れの季吟門	春惜む	時候
10037	昭和2年	春の部	神の前行春の塵を留めけり	行春	時候
10039	昭和2年	春の部	日は照れど霞潤ふ松の間	霞	天文
10040	昭和2年	春の部	防風老いしに誰が子今朝又牛放つ	防風	植物
10042	昭和2年	春の部	誰摘まぬ木芽ほうけて鳥の啼く	木の芽	植物
10044	昭和2年	春の部	幾里行く脚の力や春暮れて	暮春	時候
10328	昭和3年	春の部	獨樹孤碑酒を酌ぎつ梅の花	梅	植物
10329	昭和3年	春の部	探梅や主人に留む三顧の詩	探梅	人事
10330	昭和3年	春の部	禽起ちて谿越す梅の東雲に	梅	植物
10331	昭和3年	春の部	梅固し急流石を轉じつゝ	梅	植物
10332	昭和3年	春の部	車輕し眉目を掠む梅の風	梅	植物
10333	昭和3年	春の部	奇しき亀畏きトや梅の花	梅	植物
10335	昭和3年	春の部	鶴頸とひさごも祝へ梅の花	梅	植物
10337	昭和3年	春の部	よき年のよき草摘みて籠に盈てり	摘草	人事
10339	昭和3年	春の部	ゆきす支の國定まりぬ梅柳	梅柳	植物
10341	昭和3年	春の部	囀や雨は大野を潤しぬ	囀	動物
10342	昭和3年	春の部	囀や泉に遊ぶ両三鳥	囀	動物
10343	昭和3年	春の部	囀や乳の如垂る枝の雨	囀	動物
10344	昭和3年	春の部	囀の岡低く川舒びにけり	囀	動物
10345	昭和3年	春の部	大和の山相争ひき囀に	囀	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10346	昭和3年	春の部	囀や相あらそひしうねび山	囀	動物
10347	昭和3年	春の部	囀や畝傍ををしと争ひし	囀	動物
10348	昭和3年	春の部	千峰萬峰の底や涅槃像	涅槃會	人事
10349	昭和3年	春の部	雪山をまのあたりにす涅槃像	涅槃會	人事
10350	昭和3年	春の部	沙羅双樹の萌ゆる聲あり涅槃像	涅槃會	人事
10351	昭和3年	春の部	ひたゆるゝ柳の條よ春の雪	春雪	天文
10352	昭和3年	春の部	世の中は小判の沙汰や猫の戀	猫の戀	動物
10354	昭和3年	春の部	雲の上は白酒黒酒に匂ふ秋	秋	時候
10356	昭和3年	春の部	薰風や五六騎城を出て遊ぶ	薰風	天文
10357	昭和3年	春の部	精神ハ斯花白し老梅忌	鳴雪忌	人事
10358	昭和3年	春の部	細柴や路にさし出て皆芽ぐむ	芽吹く	植物
10359	昭和3年	春の部	蔭の臺畦越す水に苔みつゝ	蔭の臺	植物
10360	昭和3年	春の部	さまざまに戀つくしたる蛙哉	蛙	動物
10361	昭和3年	春の部	いきものゝ戀しなぐゝに水温む	水温む	地理
10362	昭和3年	春の部	踏青や龍戦ひし野を遠み	踏青	人事
10363	昭和3年	春の部	踏青や玉とあざむく鳥の糞	踏青	人事
10364	昭和3年	春の部	誰と共に青きを踏まん白頭翁	踏青	人事
10365	昭和3年	春の部	踏青の子や邯鄲の市を過ぐ	踏青	人事
10366	昭和3年	春の部	踏青やひゝなが宿に夜は寝ねん	踏青	人事
10367	昭和3年	春の部	踏青の客や故郷の人ならず	踏青	人事
10368	昭和3年	春の部	踏青や鸚鵡は籠に留まりて	踏青	人事
10369	昭和3年	春の部	鶯の來鳴くも知らず畑に在り	鶯	動物
10370	昭和3年	春の部	春の日の透る古葉よ古苔よ	春の日	天文
10372	昭和3年	春の部	此下に玉を埋めたり落椿	椿	植物
10373	昭和3年	春の部	蜂群るゝ雑木の花の一日かな	蜂	動物
10374	昭和3年	春の部	蜂來り促がす遅吟晝深く	蜂	動物
10375	昭和3年	春の部	蜂未だ起きず閑伽はや汲了へつ	蜂	動物
10376	昭和3年	春の部	蜂の巢や久矣經櫃開かざる	蜂の巢	動物
10377	昭和3年	春の部	蕊深き蜂や晨の露じめり	蜂	動物
10378	昭和3年	春の部	蕊深く蜂の翅を斂めけり	蜂	動物
10379	昭和3年	春の部	頭長き新發意蜂に螫されけり	蜂	動物
10380	昭和3年	春の部	蜂の巢や久し鐘樓に上らざる	蜂の巢	動物
10381	昭和3年	春の部	袂軽く扇の影と蜂の影	蜂	動物
10382	昭和3年	春の部	蜂の影扇の影と水に在り	蜂	動物
10383	昭和3年	春の部	扇影やかざしに迫る蜂一ツ	蜂	動物
10385	昭和3年	春の部	住吉や探題更に藤の花	藤の花	植物
10387	昭和3年	春の部	人知らぬ鶯聴くも山の幸	鶯	動物
10389	昭和3年	春の部	山法師矛の先なる藤の花	藤の花	植物
10390	昭和3年	春の部	山吹ハきのふか刈りし藤の花	藤の花	植物
10391	昭和3年	春の部	石の如憑む木枯れつ藤の花	藤の花	植物
10392	昭和3年	春の部	野茶湯の客のよるべや藤の花	藤の花	植物
10394	昭和3年	春の部	恒河沙に甘露湛へつ佛生會	仏生會	人事
10395	昭和3年	春の部	灌佛や一滴々の法の乳	仏生會	人事
10396	昭和3年	春の部	紫の雲は藤かも花御堂	花祭	人事
10397	昭和3年	春の部	花御堂尚ほのかなり暮の星	花祭	人事
10398	昭和3年	春の部	雪山はうしろに聳ゆ花御堂	花祭	人事
10400	昭和3年	春の部	松露掘と人に見られし一日哉	松露	植物
10401	昭和3年	春の部	山盛の松露こぼさぬ徑かな	松露	植物

大正12年～昭和3年、不詳

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10403	昭和3年	春の部	一日野をゆけバ一日の春暮るゝ	暮春	時候
10405	昭和3年	春の部	依々として妻ハ摘みおり遅蕨	蕨	植物
10406	昭和3年	春の部	草鞋緒を結ぶに雉子のほろゝ哉	雉子	動物
10407	昭和3年	春の部	篠原や透く日斜に篠子採る	筍	植物
10606	不詳	春の部	春の夜や闇に灯して詩仙堂	春の夜	時候